

研 究 テ ー マ	概 要
	$\sigma c = 773r a + 3.4$ 本報を、第33回日本林学会九州支部大会（52年10月30日那覇市）において研究発表した。
7. モウソウチクの乾燥特性 速矢良太郎 大西 洋	モウソウチク材の乾燥特性を把握するため稗壁内における各断面の収縮率、吸水量ならびに割竹と丸竹の乾燥経過について測定を行った。その結果、竹材の水分に対する挙動は稗壁内の維管束走向及び柔組織の分布密度によって異なることが判明した。つまり、髓層や皮層におおわれた稗壁内での水分移動は、ほとんど維管束によってなされるため、数節を有する丸竹の乾燥は困難である。柔組織は乾燥温度が高いと落ちこみを生じる。とくに半径方向への落ちこみが大きく、乾燥温度は60℃程度で行うことが必要である。なお、割竹の乾燥日数は、髓層と皮層付きが3日、髓層と皮層の削除が2日である。 結果の一部を、昭和52年度、中国、四国、九州地方工芸合同部会（52年10月26日、那覇市）で研究発表した。
8. 仏壇の構造仕口の改善研究 榎山 和實	1.目的 仏壇の需要が大型化、高級化されて来た今日、今までの技術技法では多くの困難が生じている。今回は伝統的技術技法の標準化を図るとともに、大型仏壇の設計試作を行ない、業界へ普及し高級化を図ろうとするものである。 2.概要 仏壇組合の木地部を中心に研究会を組織し三方開きの仏壇について、材料、寸法、構造（特に軸摺り法、二重障子の組子）について検討を重ね、設計図を作製し、研究会員で試作を行った、その中で特に改善された主な点は、軸摺りT双を使用せず、戸縦框の下部を二段胴付きとし、上板との間隙を1.5m/m×2+1.5m/mとした事である。 また取り付けに特殊治具を考案した事が正確に組立てられる要因ともなった。 3.考察 三方開き仏壇のこの種については所期の目的を達成出来たが、更らに外三方型等について引続き研究を継続して標準化、高級化を図りたい。
9. 木製家具加工技術の研究と試作 東郷 信王	1.目的 県産材の付加価値を高めた家具のデザインと構造仕口の試作研究を行ない、特に屋久杉の荒杢、中杢材のソリッド材及び挽板材等の高度利用化を求め、技術講習会の資料とし業界への技術普及を図る。 2.概要 楯、地楯、楯材のソリッド材、化粧材を使った机、収納セット等を試作し着色表面処理によって、高級家具としての適応性を研究端材等の処理に内部構造用材への利用化を図った。 屋久杉荒杢、中杢材を使い異種材（楯）と併用した飾棚、文机等への適合性を研究、更にスクリーンプロセス技法を屋久杉家具への応用で付加価値を高めた県産家具として、期待を得られたことに対し更に次の事項について研究を行なう。 (1) 屋久杉の荒杢、中杢材の高度利用化。 (2) 屋久杉と異種材との関係。 (3) 厚板材使用と構造強度について。 (4) 屋久杉家具と蒔絵技法の組合せ。